

23%である。埋藏量は今回の調査では明かに成し得なかつた。

## 9. 現況

### a. 採掘

採掘は全部機械掘で現在空気圧縮機 100 馬力 1 台, 50 馬力 2 台, 40 馬力 1 台, 鑿岩機はストーパー CC 11, ジャックハンマー S 49 及び S 39 を用いて採掘している。

採掘法は上向階段法を採用し, 一段毎に廃石を以て採掘跡を充填し切羽の安全を保つようにしている。

充填の方法は鉱体の小さいものは隣接母岩を採掘掘鑿し, その廃石で充填し鉱体の大きいものは上下の水平坑道を連絡する坑井を設け, 上部坑道準以上に於ける採掘又は探鉱掘鑿により生ずる廃石をこのシュートに搬入後採掘跡の空隙を充填する。

上下坑道の高距は 20 m である。

第二通洞準上部は, 殆んど採掘済みで, 現在は, 下四及び五番坑を採掘中である。

### b. 排水及び通風

上部坑道の排水は, 通洞坑より自然排水し, 現在稼行中の下四及び五番坑の排水は, 第二通洞準に揚水し, 下

一及び下二番坑道の排水と共に, 第二通洞坑より自然排水とする。

通風は自然通風である。

### c. 運搬

現在下四及び五番坑を手押で運搬し, 40 馬力の堅坑巻で第二通洞まで捲揚げ, 蓄電池式 3 ton 電車で坑外の選鉱場に搬出する。

軌條は, 第二通洞は 30 封度を用い, 複線であるが, 他は 12 封度単線坑道である。

### d. 選鉱

第二通洞より搬出せられた粗鉱は, 50 馬力捲揚機により捲揚げられ, 「チップラー」を経て粗鉱壘に入る。

本選鉱場は, 1 日 50 t の処理能力があるが, 現在取扱鉱量は約 30 t である。鉱石は先ず「ブレイキクラッシャー」で破碎の上塊鉱より手選精鉱と廃石を抽出する。片刃は「コーンクラッシャー」で再破碎の上粉鉱と共に「ボールミル」で磨鉱し, 試薬添加の上, 銅と硫黄を浮遊せしめ, これを再び「ボールミル」にて再磨鉱の上, 銅分と硫黄分を分離する。選鉱系統図は別紙の通りである。

(印刷省略)

(昭和 24 年 9 月調査)

553.611.9 : 550.8 (521.85)

## 山口縣鍋倉嶺石鉱山調査報告

原口九萬\* 影山邦夫\*

Résumé

### Nabekura Pyrophyllite Mine, Yamaguchi Prefecture.

by

Kuman Haraguchi & Kunio Kageyama

The Nabekura pyrophyllite mine is situated in Tokusa village, Abu county, Yamaguchi prefecture.

The deposit is the thin bedded hydrothermal replacement one in the early Tertiary rhyolite flow.

The pyrophyllitization and silicification of the country rock is remarkable, and the ore consists of pyrophyllite and diaspore, with considerable amount of corundum in some ore.

The fire proof degree of the ore varies from SK 34 to SK 32.

The ore amounts about 4,900 metric tons in probable reserve and about 4,000 metric tons in possible reserve.

鍋倉嶺石鉱山は山口縣阿武郡徳佐村宇鍋倉に在り, 良質の嶺石を産出したが, 十数年間に亘つて休山していた。今般日本耐火株式会社所有となり, その再興が計られ, 同鉱床の地質調査を行つた。

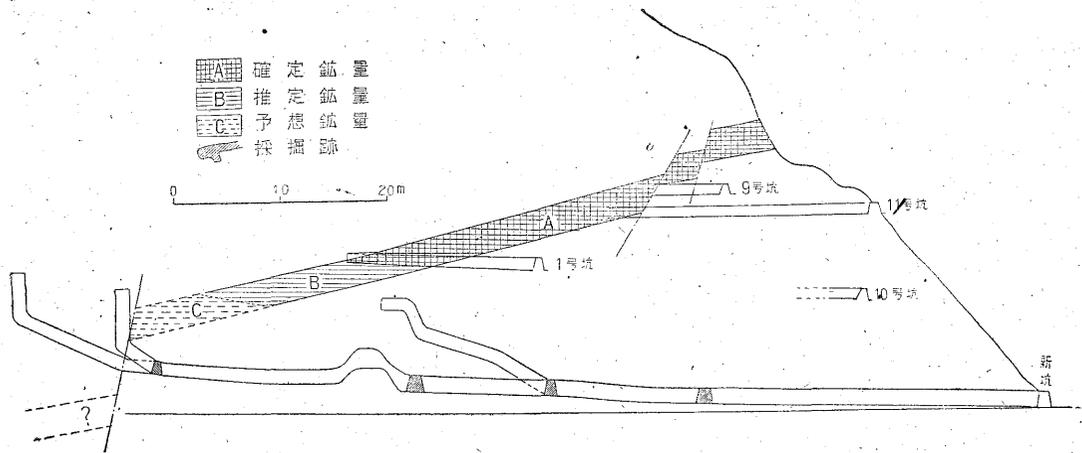
本調査は鉱床の賦存状態に重点をおき地形測量及び坑内図を作製し, 探鉱方針を樹立した。

鉱床は中生代乃至第三紀に於ける火成岩の活動に関連する石英粗面岩の低温淺熱水性交代鉱床に属し, 鉱床附近の母岩は珪化並びに嶺石化両作用が著しく, 珪化帯は侵蝕にたえ露岩をなすことが多い。

鉱床の分布の特性は, この附近に多数見られる断層及び母岩の節理の方向と関係を有し, 東西性が顯著であることであつて, (1) 徳佐—地福両村界山頂の探鉱坑—鍋倉—野戸原, (2) 倉多の諸鉱体及び (3) 佐波郡滑一鬼ヶ高地鉱床は何れも東西方向の直線上に配列される。

本鉱床はレンズ状鉱層をなし, 走向略々東西, 南へ 10°

\* 大阪支所  
地質月報 第 1 卷 第 5 號



第 1 圖 断 面 圖

内外の緩斜を示し、なお探鉱の要があるが現在判明している部分は、走向延長 45 m 傾斜延長 55 m である。

蠟石は葉蠟石質蠟石に属し、優良鉱・上鉱・並鉱及び淡鉛色鉱の 4 種に区別される。優良鉱は淡紅白色・淡青白色・緻密で、葉蠟石を主成分とし、ディアスポアを伴い、副成分に白鉄鉱・絹雲母を伴う。礬土に富み耐火度は SK 35 に達する。稀に眼玉石を挾有する。

上鉱は淡灰白色を呈し、多少脂肪光沢を有し、多量の鋼玉を斑点状に含有するもので、耐火度は SK 34 である。葉蠟石を主とし、少量のディアスポアを含有する。

並鉱は灰白色・淡青灰色・脂肪光沢を有し、岩質は堅

硬で、第 1 坑では珪化作用の影響をうけて特に堅緻となる。耐火度 SK 32 のものである。

露天堀及び坑内に於て鉱石が殆んど観察されぬため、鉱床内部に於ける品位の分布状態を明らかにし難いが、地表に近い部分程良質鉱石(優良鉱及び上鉱)が多く、下部に至るに従い、減少する傾向がある。

埋蔵は推定約 4,900 t、予想約 4,000 t である。

本鉱床はなお走向方向及び下部は探鉱の余地があり、従来探鉱失敗の原因は東西性の断層粘土を追跡したことに基因する。

553.32.065 : 550.8 (521.62) : 622.19

### 愛知縣田口鉱山マンガン鉱床調査報告

宮本 弘 道\*

Résumé

#### On Manganese Ore Deposits at Taguchi Mine, Aichi Prefecture.

by

Hiromichi Miyamoto

The manganese ore deposits at Taguchi Mine, occur in quartz schist and mica schist, being replaced by hydrothermal solution. The ores consist chiefly of tephroite, rhodochrosite, Mn-garnet and rhodochrosite with more

silicate content. The estimated ore reserves are less than one thousand tons (Mn=36%)

#### 要 旨

昭和 25 年 3 月 9 日より 8 日間愛知縣北設樂郡田口町田口鉱山のマンガン鉱床を調査した。本鉱山のマンガン鉱床は雲母片岩及び石英片岩を母岩とする熱水性の交代鉱床である。主な鉱床は源助・鳥帽子・裏山にあつて、第三紀の礫岩層によつて覆われている。その深さは 10m 以下の浅いものである。目下源助の鉱床の探掘が行われている。鉱石はバラ輝石・テフロ石・菱マンガン鉱等のマンガン鉱物よりなつて、珪酸分が多い。平均品位を Mn 36%と見込んで 600 t が推定されるが、それ以上の

\* 鉱床部  
地質月報 第 1 卷 第 5 號